

# 第3回学校給食運営協議会資料

令和5年1月20日

## 1 開会

## 2 会長あいさつ

## 3 会議の公開について

三田市情報公開条例（平成15年3月31日条例第2号）

(会議の公開)

第30条 実施機関に置く附属機関及びこれに類するものは、その会議(法令等の規定により公開することができないとされている会議を除く。)を公開するものとする。ただし、次の各号に掲げる場合であつて、当該会議で非公開を決定したときは、この限りでない。

- (1) 第7条各号に規定する非公開情報が含まれる事項について審議、審査、調査等を行う会議を開催する場合
- (2) 会議を公開することにより、当該会議の適正な運営に著しい支障が生ずると認められる場合

基本的に会議は公開ですが、公開の可否については毎回の会議冒頭に確認します。  
会議の開催日時、場所、及び議事概要等は市ホームページで公表します。

本日の会議      公 開      ・      非 公 開

## 4 報告事項

### (1) 燃料費の補正額について

補正額	当初予算額	12月補正額	現計予算額	単位
	14,000	2,376	16,376	千円
一人当たり換算	1,381	234	1,615	円

喫食者数10,141人（令和4年5月現在）

## 5 協議事項

### (1) 持続可能な給食実施のための保護者と市の負担のあり方について

- ① 給食費改定の基本的な考え方について  
1 食あたりの給食経費をどう考えるのかを協議します。

### ② 給食経費の負担のあり方について

経費の区分		現 在	変 更 後
1	基本的な食材の購入に要する費用	保護者負担	
2	調理に伴う燃料代	保護者負担	
3-1	調理や洗浄に伴う上下水道料金(1/4)	保護者負担	
3-2	調理や洗浄に伴う上下水道料金(3/4)	市負担	
4	電気代	市負担	
5	地産地消に伴うプラスアルファとなる費用	市負担	
6	安心安全な食材の購入に係るプラスアルファとなる費用	市負担	
7	給食の配送に係る委託経費	市負担	
8	給食センターの維持管理費	市負担	
9	調理やその他事務等に伴う人件費	市負担	
10	その他の事務費など	市負担	

※食材費には、主食の材料費・牛乳代を含みます。

※5・6は通常食材との差額分を想定しています。

<参考> 令和3年度実績を元に「1食あたり」「年間(1人あたり)」を計算しました。

(単位：円)

1食あたり		幼稚園	小学校	中学校
1	食材費(下記以外)	197.94	224.33	259.21
2	燃料代(ガス・重油)	8.83	10.01	11.56
3-1	水道代1/4	3.23	3.66	4.23
保護者負担 小計		210.00	238.00	275.00
3-2~10	市負担	205.64	233.06	269.29
合計		415.64	471.06	544.29

年間(1人あたり)		幼稚園	小学校	中学校
※標準の喫食数		140食	180食	180食
1	食材費(下記以外)	27,711	40,380	46,657
2	燃料代(ガス・重油)	1,236	1,802	2,082
3-1	水道代1/4	452	659	761
保護者負担 小計		29,400	42,840	49,500
3-2~10	市負担	28,790	41,951	48,473
合計		58,190	84,791	97,973

総額		幼小中合計	構成割合
1	食材費(下記以外)	420,465,466	47.6%
2	燃料代(ガス・重油)	18,758,905	2.1%
3-1	水道代1/4	6,860,904	0.8%
保護者負担 小計		446,085,275	50.5%
3-2~10	市負担	436,825,682	49.5%
合計		882,910,957	100.0%

※ 「1食あたり」、「年間」及び「構成割合」は、表示されている桁未満をそれぞれ四捨五入しているため合計が合わないことがあります。

## (2) 答申書の構成等

第2回までに協議された内容から考えられるもの

### (1) 三田市の目指す学校給食のあり方

#### (2) 給食内容の充実(栄養価の確保、地産地消の推進、安全安心な食材の検討等)

##### (ア) 栄養価の確保

##### (イ) 地産地消の推進

##### (ウ) 安心安全な食材の使用

##### (エ) その他

本日の協議(1)で検討した項目

### (3) 持続可能な給食実施のための保護者と市の負担のあり方

## 第2回運営協議会以前にいただいたキーワードほか(学校給食のあり方関係)

生きた教材

給食を通じて触れ合うことができる

食べる時間の確保

内容の充実

季節感を楽しみに

見た目がさびしい

ボリューム感がない

子どもが楽しみにできる

デザート

三田産

三田米、三田肉、三田ポーク、母子茶、ヤマフクモチ

三田の伝承料理

オトコ<sup>\*</sup>ツイタチ

B級グルメ、子どもと一緒に、あずきご飯(おとご一日) など

県内産の活用

海産物(海苔、魚、カニなど)

第2回学校給食運営協議会資料より抜粋（P2、P4の表を再加工）

県下他市の給食費比較

令和4年4月1日現在

小学校高学年			
1食あたり給食費	直近改定年月	光熱水費等	無償
三田市	238円	H26/4	保護者負担
1	270円	R2/4	
2	260円	H26/4	
3	260円	H29/4	
4	260円	H31/4	
5	260円	H27/4	
6	258円	H31/4	
7	258円	R3/4	
8	254円	H28/4	
9	250円	H28/4	
10	250円	H29/4	
11	245円	H28/4	
12	243円	H31/4	
13	242円	R3/4	
14	240円	H31/4	
15	234円	H27/9	
16	227円	H26/4	
17	220円	H31/4	
18	220円	H19/4	
19	210円	H8	
20	260円	H29/4	保護者負担
21	250円	H27/4	保護者負担
22	250円	H21/4	保護者負担
23	240円	H30/4	保護者負担
24	230円	H26/4	保護者負担
25	258円	R2/4	無償
26	255円	R2/4	無償
27	255円	R3/4	無償
28	240円	H26/4	無償
	<b>246.00円</b>	阪神間平均	
	<b>246.39円</b>	県下市平均	
	270円	最高額(1食)	
	210円	最低額(1食)	

中学校			
1食あたり給食費	直近改定年月	光熱水費等	無償
三田市	275円	H26/4	保護者負担
1	340円	H29/4	
2	313円	R2/9	
3	310円	H31/4	
4	300円	R2/4	
5	295円	H26/4	
6	292円	R3/4	
7	290円	H28/4	
8	290円	H31/4	
9	290円	R4/9	
10	290円	R3/4	
11	280円	H29/4	
12	280円	H27/4	
13	275円	H31/4	
14	275円	H28/4	
15	265円	H27/9	
16	258円	H26/4	
17	240円	H31/4	
18	240円	H19/4	
19	240円	H8	
20	297円	H27/4	保護者負担
21	280円	H21/4	保護者負担
22	270円	H26/4	保護者負担
23	260円	H30/4	保護者負担
24	315円	R3/4	無償
25	308円	H28/4	無償
26	291円	R2/4	無償
27	280円	R2/4	無償
28	270円	H26/4	無償
	<b>298.43円</b>	阪神間平均	
	<b>283.36円</b>	県下市平均	
	340円	最高額(1食)	
	240円	最低額(1食)	

※ 阪神神戸の各市及び加古川市は、9月1日現在

※ 上記以外の各市は、R4.4調査に基づきます。

※ 徴収額は減免等により異なる場合があります。

※ 各平均は三田市を除いた平均です。

※ 第1回会議以降に数値が判明した市がありましたので平均が変わっています。

※ 小学校高学年・中学校ごとに給食費の高い順に並び替えていますので、校種ごとの番号が同一の市とは限りません。

<地場産品への市町の助成等の状況：明石市調査より>

三田市	地場野菜の使用に際し、市場平均価格の1.2倍とし、生産納品等にかかる負担分の0.2については子育て応援基金（ふるさと納税）より補助
芦屋市	地産地消推進のため地産地消週間（5日間）を設け、小学校（8校）、中学校（3校）に補助
豊岡市	市内産減農薬米使用に係る差額を市が補填している。
加古川市	志方健やか米及び加古川パスタを使用した際の市負担金あり。金額は選定物資との差額。
西脇市	地産地消推進助成（黒田庄和牛、金ごま購入費）
三木市	地産地消調整費
丹波篠山市	米粉パン補助・特産品補助
養父市	本市在住の児童生徒の学校給食費を補助することにより、保護者の負担軽減を図り、子育てを支援する。
丹波市	丹波市の特産品である大納言小豆を、農業振興の一環として市費にて学校給食に提供。
南あわじ市	地場産農水産物の利用拡大のため、南あわじ市学校給食食材利用拡大推進協議会より補助。 今年度はポストコロナに対応した事業として、学校給食支援事業として、地元産の水産物の給食食材の提供。
淡路市	食育の観点より、地産地消等の推進を目的として、淡路市産の農水産物等を使用した特別献立（コロナに負けるな給食応援事業）を提供するにあたり、1食あたり小・中は500円を上限額として、それぞれの給食費を上回る額を市から補助（年間3回実施（学期に1回））
宍粟市	「地産地消の推進」「内水面資源消費拡大」を給食食材にも採り入れており、地元食材並びに市内で養殖されている鮎・アマゴ、肥育されている和牛及び狩猟捕獲された猪・鹿等を活用することにより、その食材費を予算の範囲内で市費から支出している。
加東市	平成25年度から「楽しみのある学校給食特別メニュー」の実施費用を市負担 平成30年9月から「学校給食充実材料費」として食物アレルギー代替食材の拡充・栄養価確保・地産地消と食育の推進を目的として支援。
明石市	食育や地産地消推進等の推進を目的として、明石市産の水産物等を使用した特別献立を提供するにあたり、1食あたり小・養は500円、中は600円を上限額として、それぞれの給食費を上回る額を市から補助（年間2回ずつ実施予定。）
加西市	JA直売所を通じて市内産農作物を使用する際は、販売価格と市場価格（入札額）との差額を市農政担当部局が市費で補填。
神戸市	令和2年4月から、中学校給食費については半額助成実施。
朝来市	子育て支援施策として、児童等と教職員の給食費の差額を市費負担としている。

# 三田市学校給食のあり方について（案）

（ 答 申 ）

第3回運営協議会用



令和5年●月

三田市学校給食運営協議会

## 目 次

答申にあたって

添付無



三田市の学校給食のあり方について



### 【資 料】

① 答申に至る協議事項



② 諮問書（写し）

添付無



③ 三田市学校給食運営協議会委員名簿

添付無



## 三田市の学校給食のあり方について

令和4年9月16日に教育長より諮問を受けました「三田市の学校給食のあり方について」に対して以下のとおり答申します。

### (1) 三田市の目指す学校給食のあり方

三田市の目指す学校給食は、子どもたちが「給食が美味しかった」「給食が楽しみだった」「三田の給食を食べて良かった」と感じることができ、「三田市の学校・園における食育推進計画」にもあるように、「食を楽しみ 食でつながり よりよく生きる さんだっ子」を実現できるものとして、内容を充実する必要があると考えます。

### (2) 給食内容の充実(栄養価の確保、地産地消の推進、安全安心な食材の検討等)

#### (ア) 栄養価の確保

学校給食摂取基準に基づき、栄養価の確保・バランスを保ったものとし、子どもたちが残さず食べることができるよう、献立の工夫によりバラエティー豊かなものであることが大切だと考えます。

#### (イ) 地産地消の推進

三田市では多くの農畜産物が生産されています。そこで、可能な限り多くの三田産食材を給食に活用することが大切だと考えます。

特に、三田の特産品は三田米と三田肉がその代表です。既に三田米は週4日の米飯や米粉パンとして活用していますが、郷土愛の醸成のためにも三田肉の活用も必要と考えます。

#### (ウ) 安心安全な食材の使用

三田産学校給食の野菜の多くは、エコファーマー認証を得た「持続性の高い農業生産方式」を実践している農家が生産したものです。そのため、減農薬で減化学肥料で栽培されていますので、この仕組みの継続が妥当であると考えます。

また、JAS法に基づく有機食材の市内での生産量も少ないため生産量の拡大を図り、学校給食への導入に向けて三田市全体での検討が必要と考えます。

#### (エ) その他

「アレルギー対応」について、食材の一部を除去した「アレルギー除去食」の提供により、全ての子どもと一緒に給食を食べることができるよう施設整備も含め検討が必要と考えます。

### (3) 持続可能な給食実施のための保護者と市の負担のあり方

運営協議会で話し合われた内容について記載します。

具体的には、次の表のとおり経費の区分ごとの負担を現在と変更案を比較して提示しておきます。

経費の区分	現 在	変更案
① 基本的な食材の購入に要する費用	保護者負担	
② 調理に伴う燃料代	保護者負担	
③ 調理や洗浄に伴う上下水道料金	保護者負担 1/4	
	市負担 3/4	

④ 電気代	市負担	
⑤ 地産地消に伴うプラスアルファとなる費用	市負担	
⑥ 安心安全な食材の購入に係るプラスアルファとなる費用	市負担	
⑦ 給食の配送に係る委託経費	市負担	
⑧ 給食センターの維持管理費	市負担	
⑨ 調理やその他事務等に伴う人件費	市負担	
⑩ その他の事務費など	市負担	

最後に

**運営協議会で話し合われた内容について記載します。**

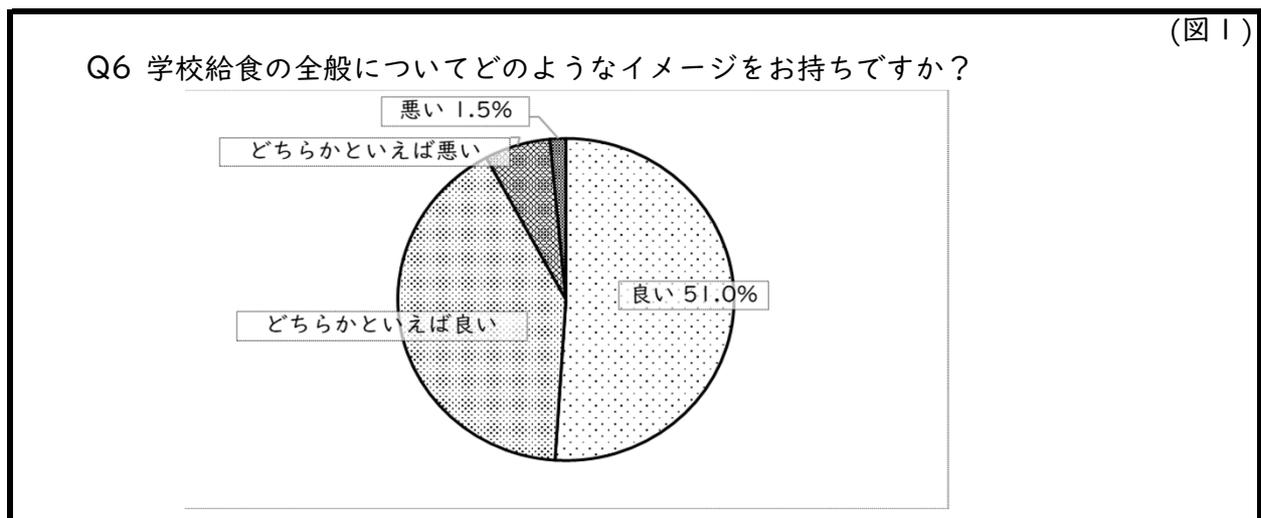
最後に、今回の答申に基づき保護者と市の負担区分を変更してもなお食材経費の確保が困難な場合には給食費の改定が必要と考えますが、その際には保護者を始め関係者に対し丁寧に説明するよう申し添えます。

## 答申に至る協議内容

今回の検討にあたり園児・児童・生徒の保護者が給食にどのようなイメージを持っているのか、給食に対して望んでいるものは何か、物価高騰に伴い食材費が不足している現状に対してどのような対応を期待しているのか等を把握するために「学校給食に関するアンケート調査」を行った他、財政状況の確認、調理現場の視察、給食の試食、農業者へのヒヤリング、県下他市の状況の調査などを行い現状の課題を把握するとともに検討の参考としました。

### (1) 学校給食のイメージ（満足度）について

アンケート結果を見ると、基本的に良いイメージが定着し、学校給食全般について満足いただけていることがわかりました。（図1及びアンケート調査結果参照）



### (2) 給食センターでの調理について

### (3) 食育の観点や地産地消なども大切にしていること

### (4) 地産地消の取り組み

### (5) アレルギー対策の充実

### (6) 安心安全な食材の使用

### (7) 給食費の改定について

### (8) 他市の学校給食費との比較

### (9) 保護者と市の負担のあり方について

## 三田市の学校給食のあり方についての今後の課題

今回の答申を実現するために次のような内容について今後検討が必要であると思われますので、併せて報告します。

- (1) 給食センターの施設について
  
- (2) 給食に要する経費の見直しの定例化について
  
- (3) 地産地消の推進について
  
- (4) 無農薬・減農薬・有機栽培について